

写真で振り返る 日出の風景と辻間楽

COLUMN 第6話
- コラム -

「復活へむけて」

1 文化財指定と継承事業

昭和56年(1981)の「辻間楽文化財愛護少年団」の結成以後、幾つかの継承事業が実施されていきます。昭和57年の「青少年地域活動促進事業」では、楽の演目と進行・符調・服装、古文書の記録や伝承などを文章にしてパンフレットを作成しています。平成21年(2009)の「辻間楽のふるさと文化再興事業」では、特に「ガンゴ」「トートーチー」「チェン」「カラカ」「ツーチー」など踊り手の基本動作を個別に動画にしてまとめており、保存継承のための貴重な史料となっています。その後「地域伝統文化総合活性化事業」(平成22年)・「国東半島宇佐地域世界農業遺産地域活力支援事業」(平成28年)でも映像記録が作成されましたが、28年の事業では昭和36年に長崎で行われた第2回ブロック別民俗芸能大会九州大会での「辻間楽」上演を記録しており、大人の演じる本来の姿の映像として貴重なものとなっています。

2 記録による継承へ

辻間楽は、成人による「辻間楽保存会」と学生らによる「辻間楽文化財愛護少年団」の2つの団体によって継承が続けられています。平成16年(2004)に復活を果たした辻間楽の継承活動は、途切れることなく続いています。指導者・楽師の不足によって再び危機を迎え始めています。

現状の継承活動だけでは、困難な状況であることから、過去の映像や録音を使用するなどの継承への試みが続けられています。



笛の指づかいを記録した映像資料(2013年)

令和4年度の継承事業では、辻間楽を記録する取組みとして、モーションキャプチャ撮影による打子(太鼓踊り)の動きを3Dデータ化する取組みを行いました。

保存会と継承者のご協力の下、「シカシカ」「狂言」を除く打子の演目部分を「平楽(円陣を展開し舞う役)」、「中楽(円陣の中心で舞う役)」と分けて全演目撮影されました。昭和34年(1959)刊行、「日出町文化財調査報告書」では、主に平楽の舞法が記録されており、中楽のみの動きについては不明な点が多く、「テンツツツーテンテン」等の演目で行われるスキップのような足運びで互いに位置を入れ替わる等の動きについても今回のモーションキャプチャには記録されています。



モーションキャプチャ撮影の様子と映像データ

3 復活に向けて

これまで述べてきたように、辻間楽の本当の姿は勇壮な大人たちが演じるものであり、愛護少年団の活動はその本来の姿を取り戻すための取り組みと理解されます。つまり勇壮な大人たちによる「辻間楽」が実施できるようになって、初めて復活といえるのではないのでしょうか。

江戸時代の辻間楽は第3話で述べているように、日出藩領内恐らく全ての村々で演じられた日出藩全体を結びつける紐帯のような芸能であったと考えられます。「辻間楽」がかつての姿を取り戻すならば、日出町の総力を集めた身震いをするほど勇壮な祭りの姿が蘇るのではないのでしょうか。